

(第1号議案)

令和3年度事業報告

<令和3年10月1日～令和4年9月末>

山梨経済同友会 代表幹事 入倉 要

令和3年度も、新型コロナウィルス感染の影響が続く年となりました。令和4年9月上旬時点では、第7波オミクロン株の感染が高止まりしているものの、経済活動は徐々に落ち着きを取り戻しつつあります。ただし、医療現場の長期にわたるハードワークは限界に来ており、検査システムの見直し等の医療現場の業務簡素化が議論されていますが、諸外国のようにスピーディーな対応が出来ないところに、日本政治の問題を感じます。

また、1年間の延期で昨年開催され、コロナ禍の国民を大いに勇気づけた東京オリンピックですが、ここにきて「五輪汚職事件」が連日取り上げられ、何よりも人生をかけて取り組んできたアスリートのことを考えると、残念でなりません。一方、民主主義の根幹を脅かす「安倍晋三元総理の暗殺事件」に端を発した旧統一教会問題と政治との関係は、政治や政治家に対して国民の不満が蔓延する事態を引き起こしています。本来ならば参議院議員選挙が終わり、山積している課題に取り組まなければならない時期ですが、政治への信頼が大きく揺らぎ、早急な対応が求められる重要な政策議論においても入り口にさえ立てない現状に、もどかしさを感じます。

そのような中、令和3年10月から始まった令和3年度の山梨経済同友会の事業は、前年度に引き続き通常の委員会活動が難しく、設営に最大の注意を払って計画通りに開催した常任幹事会と、少人数の打合せという形での委員会・部会の幹部会を中心としました。年度の後半からは、社会において様々な活動が再開しはじめましたが、当会では、活動再開よりも、令和4年10月にはじまる新年度から体制や組織を刷新して活動することを目指し、準備調整を進めることとしました。

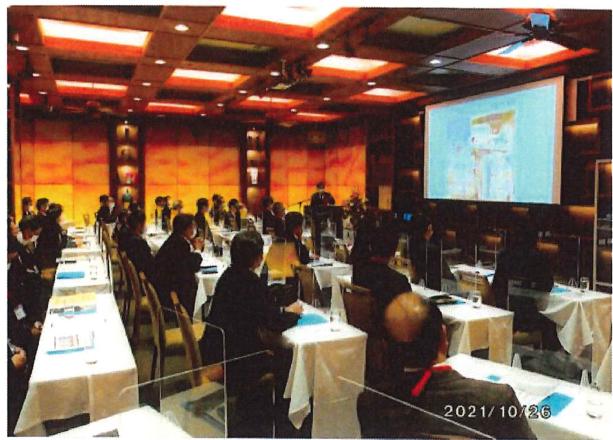
こうした方針を踏まえ、事業としては、特に、経済同友会の本来の目的である「提言活動」を改めて重視するため、メンバーの社会情勢に対する現状把握や分析・活用・応用力を高める勉強会を開催することからはじめました。また、しばらく疎遠になっていた会員間の交流の機会を創出するため、万全の準備をした上で納涼会を開催し、次年度に向けた気持ちの盛り上げをはかりました。

次年度の体制や組織については、県や地域に対しての提言を担当するチームと、これまで長年にわたり他団体や大学、地域と連携して進めてきた継続事業を担当するチームの2つに分けて活動を行うこととしました。また、事業としては、2年後となった中央日本地区会議の山梨開催に向けて、山梨県外の同友会や経済団体との連携事業、そしてアフターコロナに向けた、行政や政治家との意見交換などを、新たな取り組みとして企画していくたいと考えています。

以上が、引き続き大変イレギュラーな1年間となった令和3年度の活動報告になります。



3.10.7 中央日本地区会議（みしまプラザ）



3.10.26 総会 基調講演（島田眞路学長）

「新型コロナの猛威」



4.1.5 新年合同互礼会（甲府記念日ホテル）



2022/08/03



2022/08/03

4.8.3 納涼会のタベ（フルーツパーク富士屋ホテル）